みんぱく Information

みんぱくフォーラム2014
東アジア展示があたらしくなりました!!
朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化「沖縄のくらし」「多みんぞくニホン」の展示が新しくなってオープンしました!

■関連イベント

◆展示場クイズ「みんぱQ」
朝鮮半島の文化編 7月15日(火)まで
日本の文化「沖縄のくらし」「多みんぞくニホン」編 7月24日(木)~8月26日(火)

企画展
「みんぱくおもちゃ博覧会――大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」
会期 8月5日(火)まで
国内有数の玩具コレクションの中から4つのテーマに沿って展示します。日本の玩具史の概要を知ることができます。体験コーナーには、すごろく、おはじき、ぬり絵、メンコなど楽しい遊び道具がいっぱいです。
※本企画展の期間中、大阪府立大型児童館ビッグバン(大阪府堺市)と日本玩具博物館(兵庫県姫路市)で相互割引を実施しています。

研究公演
「アリラン峠を越えていく――在日コリアン音楽の今」
在日コリアンが奏でる音楽には、マイノリティとしての体験や歴史の記憶が投影されています。朝鮮半島の伝統音楽をベースにした「音楽の今」をお楽しみください。
日時 7月20日(日) 14時~16時30分(13時30分開場)
会場 本館講堂(定員450名)
申込締切延長(定員に達し次第締切)
※要事前申込、参加無料(要展示観覧券)

博学連携教員研修ワークショップ2014 in みんぱく
「学校と博物館でつくる国際理解教育――センセイもつくる・あそぶ・たのしむ」
本館を活用した国際理解教育の実践事例の紹介やワークショップを通して、国際理解教育における博学連携の意義や可能性について考えます。
日時 8月5日(火) 10時20分~17時(受付10時開始)
会場 本館講堂およびセミナー室、本館展示場内
※参加無料(要事前申込、当日参加も可)
お申し込み・お問い合わせ先
情報企画課 FAX06・6878・8242

みんぱくワールドシネマ
「ピア・アンド・ゼア」
アメリカでの数年間の出稼ぎ労働から故郷メキシコに帰った父親が、家族と再会し新たに生活を築き上げていく模様を通して、異文化に働きに出る人びとと、その人を送り出し故郷で待つ家族の心情と現況を見つめていきます。
日時 8月30日(土) 13時30分~16時30分(開場13時)
会場 本館講堂
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
※当日11時30分よりナビひろばにてメキシコ移民映画についてのミニレクチャーあり
時間 11時~13時30分
会場 あべのハルカス近鉄本館「スペース9」
主催 産経新聞社
特別協力 国立民族学博物館、千里文化財団
※要事前申込(申込締切は各回開催日の1週間前)、参加費 各回3000円

7月2日(水) 川瀬慈(本館 助教)
伝説に彩られた吟遊詩人ラリベロッチ(エチオピア)
7月9日(水) 飯田卓(本館 准教授)
霧の森の木彫り――マダガスカルの無形文化遺産
7月16日(水) 福岡正太(本館 准教授)
影が紡ぎ出す物語――カンボジア無形文化遺産の伝承

(番外編)企画展「みんぱくおもちゃ博覧会」見学ツアー
日時 7月24日(木) 11時~13時30分
集合場所 本館エントランスホール
講師 日高真吾(本館 准教授)
※要事前申込、参加費2000円(展示観覧券、食事代含む)
お申し込み・お問い合わせ先
ウェーブ産経カレッジシアター係
電話 06・6633・9087

●研究公演、映画会等参加方法変更のお知らせ
4月から、研究公演、みんぱく映画会、みんぱくワールドシネマにご参加いただく際、当館の展示観覧券のご提示をお願いすることといたしました。
なお、みんぱくフリーパス、国立民族学博物館友の会会員証、キャンパスメンバーズの学生証等をお持ちの方は、ご提示いただくと、観覧券は不要です。
※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時~17時(土日祝を除く)です。

夏休みこどもワークショップ
「貝からわかる世界の暮らし――みんぱくで貝を探してみよう!」
自由研究応援。みんぱくに展示されている貝製品から、世界じゅうの暮らしを考えて、報告書にまとめよう。
日時 7月21日(月・祝) 10時30分~16時(受付10時開始)
講師 飯田卓(本館 准教授)
ファシリテーター 上羽陽子(本館 准教授)
会場 本館展示場(定員15名)
対象 小学4年生から6年生
※要事前申込(先着順)、参加費500円、要展示観覧券
お問い合わせ先
情報企画課
電話 06・6878・8532

MMP10周年記念ワークショップ
◆「手づくり楽器を作って楽しもう」
日時 7月27日(日) 11時、13時、14時、15時(各回30分)
会場 本館エントランスホール(定員各回10名)
※当日申込(先着順)、参加無料、5歳以上対象
◆「やってみよう! わくわく体験 in みんぱく/夏休みスペシャル」
日時 8月3日(日) 10時30分~16時20分(随時受付)
会場 本館エントランスホール・セミナー室
※当日申込(先着順)、参加無料(一部要展示観覧券)、小学生対象
お問い合わせ先
情報企画課
電話 06・6878・8532

みんぱく創設40周年記念 カレッジシアター
「みんぱくの地球探究紀行」
研究者が撮影した世界各地の記録映像と研究者によるレクチャー。近鉄百貨店ならではのおいしいお弁当付き。

みんぱくホームページ http://www.minpaku.ac.jp/ みんぱくフェイスブック http://www.facebook.com/MINPAKU.official
みんぱくツイッター http://twitter.com/MINPAKUofficial 電話でのお問い合わせ 06-6878-8560(本館 広報係)

みんぱくゼミナール

時間 13時30分~15時(13時開場)
会場 本館講堂
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示を観覧になる方は観覧料が必要です)

第434回 7月19日(土)
泡盛今昔物語
講師 日高真吾(本館 准教授)
萩尾俊章(沖縄県教育庁文化財課 副参事兼班長)
泡盛は琉球王府の管理の下、首里の指定酒屋で生産されていた蒸留酒。かつて首里城には数百年ものの古酒が伝わり、外交や接待の際に振る舞われました。18世紀前半には一般にも広まりをみせ、今も人気を博しています。ここでは、泡盛の今昔を紹介しながら、沖縄の歴史に触れてみたいと思います。

酒造組合連合会の泡盛広報写真(昭和30年代)

第435回 8月16日(土)
世界遺産に住む――中国・客家(はっか)の伝統家屋
講師 河合洋尚(本館 助教)
客家の人びとは巨大な集合住宅に住んでいることで知られています。なかでもドーナツ型の円形土楼と馬蹄型の囲龍屋(いりゅうおく)は珍しいため、文化遺産保護の対象になっています。本ゼミナールでは、円形土楼と囲龍屋をめぐる最新の情報を紹介します。

福建省の円形土楼

みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

会場 本館ナビひろば
時間 14時30分~15時30分
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
本館の研究者が来館された皆様の前に登場します!「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どんどん質問をお寄せください。展示場でお待ちしております。

7月6日(日)
話者 菅瀬晶子(本館 助教)
話題 多みんぞくの街・新宿新大久保物語――生まれ育った者の視点から

7月13日(日)
話者 三島禎子(本館 准教授)
話題 アフリカの布から見る世界の経済

7月27日(日)
話者 朝倉敏夫(本館 教授)
話題 うどん・オムライス・味の素――朝鮮半島における「食」の近代化

刊行物紹介

■岸上伸啓 著
『クジラとともに生きる――アラスカ先住民の現在』
臨川書店 2,000円(税抜)

なぜ彼らは、それでも捕鯨を続けるのか。温暖化や反捕鯨運動など厳しい現実が取り巻く極北の村で、捕鯨民の文化と社会の実態に迫る。

■森明子 編著
『ヨーロッパ人類学の視座――ソシアルなるものを問い直す』
世界思想社 3,800円(税抜)

現代世界に生きる人々は、何に共同性を求めて、どのようなつながりに社会を見いだしているのか。いま、あらためて社会的なるものとは何か、ヨーロッパのフィールドワークから問い直す、本館共同研究の成果。

友の会

国立民族学博物館友の会 電話 06-6877-8893(9時~17時、土日祝を除く) FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/ e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会(大阪)
会場 本館第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員証提示)
第434回 8月2日(土) 14時~16時
(※講演の一環で展示場を見学します)
【新展示関連】
植民地期に海を渡った日本の食
講師 朝倉敏夫(本館 教授)
韓国には、私たちにとってもなじみのある名前の食べ物が多くあります。オデン、サシミ、ウドン、トンカツ、オムライス。これらはすべて、植民地期に日本から朝鮮半島に渡りました。現在、これらの食べ物は、韓国でどのように変化しているのでしょうか。
食の受容と変容をとおして、日本と韓国の近現代史について考えてみようと思います。
また、食べ物をとおしてハングルにも親しんでいただきます。

第435回 9月6日(土) 14時~15時
【企画展「未知なる大地――グリーンランドの自然と文化」関連】
極北の孤島グリーンランドにおける気候変動と文化の変遷
講師 岸上伸啓(本館 教授)
北アメリカ大陸の北東沖に世界最大の島グリーンランドがあります。現在はイヌイットが住んでいます。人類がそこに進出したのは今から四五〇〇年ほど前のことでした。同島は、一年をとおして厚い氷河が大部分を覆う氷の島です。ところが一〇世紀末に入植したバイキングは、「緑の大地」とよんでいました。氷の島がなぜ「緑の大地」なのかという疑問にもとづき、グリーンランドにおける文化の盛衰や交替を、気候変動との関係から紹介します。
※講演会終了後に、一時間程度の展示場見学会を開催します。

※国立民族学博物館ミュージアム・ショップの記事は、表紙うらに移りました。